



# バイオマス発電が生む可能性

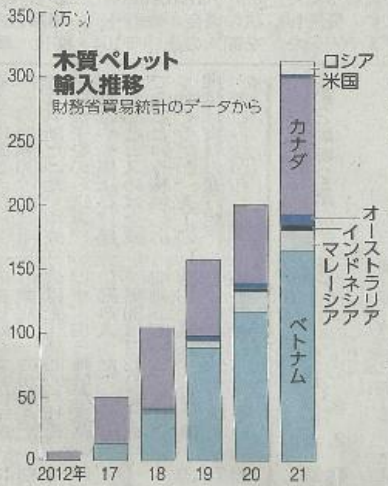
気仙沼での木質バイオマス  
発電を軸とする循環



天候に左右されずに電気を作ることができる、再生可能エネルギーのバイオマス発電。地域の木利用材を使えば森林再生や雇用創出など、SDGs（持続可能な開発目標）にも結びつきます。一方で、海外から燃料を大量に輸入する大型発電が急増し、持続可能性の課題が横たわっています。（神田明美）



発電所で使う1日分の木質チップを見せる  
高橋正樹社長＝2日、宮城県気仙沼市港町



植物由来の資源を有効利用するバイオマス発電。「地域材で燃料を調達するならば、発電能力は2千トワット程度まで」（業界関係者）と言われているが、大型発電所の計画が各地で相次ぐ。再生可能エネルギーの固定価格買取取り制度（FIT）の対象で、安定した取入が見込めるからだ。バイオマス発電としてFIT認定を受けている発電所のうち、3万トワット以上の大型発電所は100を超え、10万トワット超もある。国内の燃料だけでは足りず、海外から輸入することを前提に建設が進む。なかでもベトナムや北米から、粒状に加工された木質実体は石炭火力よりも多く発電時に排出している。同研究所の三枝信子・地球システム領域長は「森林は炭素を貯蔵し気候変動をやわらげる大切な役割をしている。広く伐採してバイオマス燃料にしたらCO<sub>2</sub>が増える原因になってしまふ。限られた材にするべきだ」と指摘する。燃料を輸入すれば、輸送に伴うCO<sub>2</sub>排出も増える。白木質バイオマス・竹質バイオマスは20年、輸入材は抑制して国内材の利用を促進するべきだと提言。事務

社長の高橋正樹さんは、市内でガソリンスタンドや漁船用重油の貯蔵施設を経営する。震災で15カ所の事業所のうち13カ所が全壊、しばらくガソリンなどを供給できなかった。その苦い経験から、地元でエネルギーを作りたいと

植物由来の資源を有効利用するバイオマス発電。「地域材で燃料を調達するならば、発電能力は2千トワット程度まで」（業界関係者）と言われているが、大型発電所の計画が各地で相次ぐ。再生可能エネルギーの固定価格買取取り制度

（FIT）の対象で、安定した取入が見込めるからだ。バイオマス発電としてFIT認定を受けている発電所のうち、3万トワット以上の大型発電所は100を超え、10万トワット超もある。国内の燃料だけでは足りず、海外から輸入することを前提に建設が進む。

木は成長時に二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を吸収するため、バイオマス発電時に出るCO<sub>2</sub>は排出量として計算されない。そのため大型施設の紹介では「脱炭素への貢献」が強調されている。だが、国立環

宮城県気仙沼市。東日本大震災からの復興で、地産地消のエネルギーが生まれた。間伐材を砕いたチップを燃料とするバイオマス発電だ。2014年に発電所が稼働した「気仙沼地域エネルギー開発」は、800トワットの発電能力で約1800世帯分に相当する電気を作る。発電に伴って出る熱エネルギーは2軒のホテルに売られるほか、チップの乾燥にも使う。

「地産地消だから、燃料は市内のスキとアカマツの間伐材だけ」。年に約8千トが必要だが、当初は必要量の8分の1程度しか集められそうになかった。林業が栄えていたのは昔の話。山林は荒れ、運び出されている間伐材は少な

「以前は間伐しても売れず、放置せざるをえなかった。今は働けば働くほど収入になる」と話す。「リネリア」でスーパードで買い物をするほか、草刈り機の購入にもあてたという。

エネルギーづくりを起点に、雇用と山林の再生、経済が上がる。地域内循環という価値が生み出されている。

「地産地消だから、燃料は市内のスキとアカマツの間伐材だけ」。年に約8千トが必要だが、当初は必要量の8分の1程度しか集められそうになかった。林業が栄えていたのは昔の話。山林は荒れ、運び出されている間伐材は少な

「以前は間伐しても売れず、放置せざるをえなかった。今は働けば働くほど収入になる」と話す。「リネリア」でスーパードで買い物をするほか、草刈り機の購入にもあてたという。

エネルギーづくりを起点に、雇用と山林の再生、経済が上がる。地域内循環という価値が生み出されている。

エネルギーづくりを起点に、雇用と山林の再生、経済が上がる。地域内循環という価値が生み出されている。

## 地元の間伐材 地域通貨で支払い

### 宮城・気仙沼

目指した。 「地産地消だから、燃料は市内のスキとアカマツの間伐材だけ」。年に約8千トが必要だが、当初は必要量の8分の1程度しか集められそうになかった。林業が栄えていたのは昔の話。山林は荒れ、運び出されている間伐材は少な

「以前は間伐しても売れず、放置せざるをえなかった。今は働けば働くほど収入になる」と話す。「リネリア」でスーパードで買い物をするほか、草刈り機の購入にもあてたという。

エネルギーづくりを起点に、雇用と山林の再生、経済が上がる。地域内循環という価値が生み出されている。

## 大型施設 輸入ありき 計画続々 増える海外燃料

令和4年5月23日 朝日新聞(朝刊)の記事を引用

